

第20回「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」体験乗船

○監物うい子・田村貴正・吉澤理・荻田善之・佐藤かおり・白野亜実・高吉宏武・比嘉直人・大城彩美・池上文香（海洋研究開発機構）、杉村誠・鈴木良博（新江ノ島水族館）、金子篤史（沖縄美ら島財団）、小味亮介・幅祥太（東京都葛西臨海水族園）

海洋研究開発機構では、未来を担う子供たちの海洋に対する夢や憧れ、興味喚起を目的として、ハガキに海洋への夢やアイデアを自由に描く「全国児童『ハガキにかこう海洋の夢コンテスト』」を実施している。第20回となる平成29年度は23,822点の応募があり、この中から入賞した8名の受賞者と保護者を対象として、深海調査研究船「かいかい」による体験乗船を実施した。なお本航海は、水族館等との連携を深め、海洋科学技術の理解増進のための試料・資料の取得も目的とし、また、本コンテストの趣旨を広く伝えるためマスメディアの取材協力及び共同企画を実施した。

体験乗船は平成30年8月4日及び5日に日帰りでの航海を駿河湾で実施した。無人探査機「かいかい」を潜航させて、入賞者が提案した各種実験や観察（水圧による物の変化の実験、深海の環境や生物の観察、水温塩分の計測等）を実施した。

航海中は、船内見学を通じた海洋調査活動の紹介、深海の環境や生物等についての講義、「かいかい」による水圧実験および海底観察、「かいかい」操縦体験、採取した生物や泥の船上での観察を実施した。深海実験は、入賞者自らが提案した物や絵を描いた発泡スチロールが水圧によって変化していく様子と、深度によって色の見え方が変わっていく様子を観察した。入賞者が提案した実験を組み入れることで、より一層関心を持って臨んでもらうことができたと考える。海底に餌を置いて生物を誘引したところ、ソコダラの仲間やユメザメ等が無人探査機を通じて観察されたほか、採取したナマコや餌に付着したヨコエビ等を船上で詳しく観察することで、海の生態系の一端を観察することができた。

また、今回は、人数が限られた入賞者以外の小学生にも海洋研究について興味を喚起するため、朝日小学生新聞及びニコニコ生放送の協力を得て、東京都内の会場で本航海の中継を視聴し、深海域での研究活動についてのかべ新聞づくりを行う関連イベントを企画した。また、テレビ番組の同行取材に協力し、本コンテストの趣旨を広く発信することができた。さらに、採取した生物を水族館で展示する等、水族館との連携によるアウトリーチ活動を展開した。

入賞者へ対して行ったアンケート調査では、実際の調査現場と海底の環境を体験できたことで、海や地球に対して「より興味を持つようになった」と参加者全員が回答した。本航海が海洋への興味喚起、理解増進につながったものと考えている。



「かいかい」体験乗船の様子



無人探査機「かいかい」操縦体験



船上の研究室での観察の様子